



## 2018年度上半期の活動報告

一言でいえば激動の半年間であった。本学会の社会における位置づけについて、多くのことが問われ、また対応を求められてきた。本学会独自の立場を主張するとともに、他学会や、厚生労働省、地方自治体や国政に関わる政治家らとの意見調整を行いながら、本学会の社会的使命を果たすための多くの活動が行われてきた。

中でも大きな問題は新専門医制度への対応である。新専門医制度が開始されたが、本年度は日本専門医機構の理事長や執行部の改選、さらには厚生労働省医道審議会・医師専門研修部会からの指導などにより、日本専門医機構の対応も変化してきた。昨年、改正医療法・医師法が成立し、厚労大臣や都道府県知事の意見を反映させる仕組みとして医師専門研修部会が設置された。2018年10月15日に開催された同部会では、日本専門医機構が示した大都市圏におけるシーリング数を厳守することを指示するとともに、カリキュラム制の導入を行うことなどを指示している。本学会では教育委員会主導でこれらには対応しているが、大都市部におけるシーリングに対しては今後の動向をよく見極める必要がある。さらに各都道府県に複数専門研修プログラムを配置することが求められている。このような中であって、ようやく10月22日に第一次募集が開始された。次に対応すべき問題は、サブスペシャリティである。当面は、内科、外科のみが考慮される状況であったが、本学会を含む他領域においても検討が始まろうとしている。基本領域である麻酔科としての対応についてはさらなる検討が必要である。

専門医新規認定においては台風の影響により筆記試験を延期する事態となった。危機管理的な観点から試験体制の見直しや、専門研修プログラム開始に伴う対応が迫られている。筆記試験のCBTへの移行、実技試験のスリム化についての検討や試験的導入も開始されている。専門医更新においては、「同一施設週3日勤務」という条件を付け加えた。このことにより、周術期管理のみでなく、ペインクリニック、集中治療などの関連領域においても、治療の継続性や医療の責任をとる体制が保たれると考える。

「フリーター」に関しては、賃金や勤務体制などさまざまな社会的な批判があるが、それらが実情に基づいた正確な批判であるという保証はない。本学会と日本外科学会、整形外科学会合同での麻酔科認定病院以外の中・小規模施設を含む大規模なアンケート調査を実施し、非常勤医の勤務の実情を把握する予定である。

昨年の無痛分娩に関わるとされる死亡事故などを受け、安全な無痛分娩体制の確立が強く求められている。2018年4月20日には「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」という医政局通知が出された。その中では、無痛分娩に係る医療

スタッフの研修体制の整備、それに関する情報公開の促進、無痛分娩に関するインシデント・アクシデントの収集・分析・共有などに関する提言が出されている。本学会も、より質が高く安全な無痛分娩を目指すための本学会員に向けた「日本麻酔科学会の考える望ましい無痛分娩のあり方」という提言を出した。現在、本学会と日本産婦人科学会、日本産科医会などの学会や、看護協会などにより、無痛分娩の安全性を向上させるための教育・トレーニングなどについても検討が続けられている。

無痛分娩を安全に行うためには、他の領域と同様に、関係する多職種がよく連携しコミュニケーションをとりチーム医療を行うことと、危機管理能力がある責任体制を築くことが重要である。本学会員が麻酔の知識はもちろんのこと、産科、産科麻酔領域の知識、技量、判断力を身に着けることが重要であることは言うまでもない。

厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」において、タスクシフトによる医師の負担軽減、労働時間短縮などが検討されている。その中で、看護師が複数の特定行為を行う医療体制が検討されている。本学会も周術期管理チームが従来から行っている術前や術後ケアに加え、術中においても麻酔科医を補助するための特定行為群を行う看護師の導入を求める要望書を厚生労働省に提出した。米国型の麻酔看護師とは異なるものである。麻酔科医と看護師が1:1で特定行為群を実施するものであり、本年度中のトレーニングプログラム案作成に向け積極的に活動を進めている。このような活動においては、本学会が主導で教育や認定などを行うシステムを作ることが重要であると考えている。

残念なことに海外からの留学生受け入れ制度は今年度をもって終了することになった。その一方、本学会員が、より海外で活躍できるような場を作るべく検討を行っている。ヨーロッパ麻酔科学会や、米国麻酔科学会、世界麻酔科学会、中華麻酔学会や韓国麻酔科学会、Society for Obstetric Anesthesia and Perinatology (SOAP)との共同企画や交換プログラム、学術集会日程の調整などを行い、本学会員の海外での活動がしやすい環境を整えつつある。

学術集会は年次学術集会も支部学術集会も盛況であった。学会プログラムの工夫などの影響などもあり専門医更新などのための単位取得の混乱は収まりつつあり、学術集会本来の在り方を取り戻しつつある。今後、論文発表を含め本学会の学術活動が活発化することを願っている。



理事長 稲田 英一

## 日本麻酔科学会第66回学術集会開催のご案内

日本麻酔科学会第66回学術集会は2019年5月30日(木)～6月1日(土)の3日間を会期とし神戸ポートピアホテルで開催いたします。日本麻酔科学会は中華麻酔学会および韓国麻酔学会とともに輪番で東アジア麻酔学会を開催しており、今回は日本の担当であるため東アジア麻酔学会も同時に併催いたします。第66回学術集会参加者はどなたも両方参加いただけますので、東アジア麻酔学会の会場も是非のぞいてみてください。また今回から新企画として、ヨーロッパ麻酔科学会と連携を深め、今後両学術集会の会期が重ならないよう調整し、講師の相互派遣を行うこととなりました。ヨーロッパ麻酔科学会が推進し日本も調印している「麻酔科学における患者安全に関するヘルシンキ宣言」について講演いただく予定になっております。ご期待ください。

今回の学術集会のテーマは「Professionalism」としました。日々の臨床、研究の方向性、病院内外での麻酔科医の果たすべき役割、日本の麻酔科診療に責任を持つという意味での日本麻酔科学会の役割や方向性、そういったさまざまなレベルにおける判断基準の拠所として麻酔科医としてのprofessionalismがあると思います。今回の学術集会では麻酔科領域のさまざまなissueについて麻酔科医としてのprofessionalismに照らし合わせて我々はどうすべきか、どこに向かうべきかについて考える機会となれば幸いです。具体的には会長企画としまして患者安全、担癌患者の周術期管理、麻酔科診療への他職種のマンパワー結集の3つのテーマ

に関して国内外の演者による講演やシンポジウムを予定しています。また、学術集会実行委員会の各領域や日本麻酔科学会各委員会からさまざまな企画をいただいております。魅力的な話題が目白押しでございます。また懇親会の前には笑いを通して医療安全を考えるやわらかい企画や、だれでも子供の頃一度は考えてみたことがある「宇宙の果てはどうなっているのか?」といったテーマも用意しております。会員の皆様にはぜひ3日間年次学術集会を楽しんでいただけたら幸いです。

本学会でも海外演者の発表に対する同時通訳サービスを継続します。海外演者の講演に積極的に参加いただき、最新の知見に触れる機会となれば幸いです。また64回から選考が始まったピッチコンテストの募集は公益社団法人としてのしほりから残念ながら今後継続されないこととなりましたが、成果発表は行いますので是非参加ください。

学術集会の肝は何と言っても一般演題です。多くの会員の皆様からの素晴らしい発表を期待しております。会員の皆様のご協力と多数のご参加をお願い申し上げます。



会長 西脇 公俊

(名古屋大学大学院麻酔・蘇生医学分野 教授)

# 学術委員会から学術集会発表および参加に関する大切なお知らせです

## 年次学術集会一般演題発表および参加に関して以下をよくご確認ください。

### 演題募集・発表に関する注意事項

研究や学術集会発表、論文投稿等を進めるうえで、所定の申請や施設の倫理承認を取得する、ガイドラインに則った対応を行うなど、本学会演題投稿時に記載・紹介しております規定は会員の皆様に十分に理解頂く必要があります、その重要性は高まっております。

同様に、学術集会発表においても昨今の社会情勢を鑑み、個人を特定する情報は原則使用せず、取り扱う場合には細心の注意が必要です。個人を特定する情報を講演により公開される場合は、その内容や受け取り手によっては名誉毀損や損害賠償といった訴訟問題に発展するリスクも多分にごございますため、十分にご注意下さい。

### 学術集会参加について

過去に明らかな代理出席が発生したことにより、参加受付で運転免許証や病院職員証など顔写真がある証明書の提示を求めざるを得ないことを必須としております。同様の不

正が発覚した場合は代理出席をした会員、依頼した会員両者とも懲罰対象となることと決定しております。

学術集会に関する諸情報について、後日学会ホームページとプログラム集に公開する「参加者案内」を十分にご確認の上、学術集会に参加してください。

### 日本専門医機構認定(専門医共通・麻酔科領域)講習会参加について

事前予約者のみ参加可能であり、所定の講演時間(講演開始～終了まで)の受講、こちらを証明する入室・退室記録が必要です。時間外(講義中)の入室、退室があった場合、入室・退室記録がない場合は一切単位付与が認められません。より多くの会員の受講機会提供、混雑緩和に努めておりますが、受講にあたってはその他の発表予定、参加予定セッションおよび会場間移動等についてはご自身で勘案し、多くの方が受講できるよう、無断キャンセルがないように、参加計画の検討をお願いします。

## 2018年度 支部学術集会開催報告

2018年9月1日(土)・8日(土)に開催しました支部学術集会について、下記の通りとなりました。

開催日	支部	会場	会長	テーマ	2018年度 参加受付数総計	前年比 (受付数)	2017年度 参加受付数総計	2018年度 有料参加者数	前年比 (有料参加)	2017年度 有料参加者数総計
2018年 9月1日	北海道・東北	星野リゾート OMO7 旭川	国沢 卓之	地方都市で 安全を考える	371	125.3%	296	368	128.2%	287
2018年 9月1日	関東甲信越・ 東京	京王プラザホテル 新宿	落合 亮一	—	1,537	97.5%	1,577	1,521	97.4%	1,561
2018年 9月8日	東海・北陸	石川県立音楽堂	谷口 巧	—	412	66.1%	623	408	66.7%	612
2018年 9月1日	関西	大阪国際会議場	中尾 慎一	麻酔科医の 特権と責任	1,088	111.2%	978	1,072	110.4%	971
2018年 9月1日	中国・四国	ひめぎんホール	萬家 俊博	麻酔科医療の 品質管理	299	107.9%	277	287	105.1%	273
2018年 9月8日	九州	沖縄コンベンション センター	垣花 学	—	431	81.3%	530	421	82.1%	513

## 2018年度 支部学術集会最優秀演題一覧

〈受賞対象者〉 以下の3つの条件を満たす者。

(1) 演題応募時点で満35歳以下の者。(2) 演題の筆頭演者である者。(3) 登録された登壇者で、かつ実際に登壇すること。

支部	領域	タイトル	演者	所属
北海道・東北	循環(基礎)	セボフルランは酸化ストレスによるグリコカリックスの障害および血管内皮依存性弛緩反応の減弱をシアル酸転移酵素 ST6Gal- I の発現増強を介して回復させる	数馬 聡	札幌医科大学医学部 麻酔科学講座
関東甲信越	呼吸(臨床)	輪状甲状膜切開におけるメス刺入長	奥山 由佳	横浜市立市民病院
東京	麻酔全般(臨床)	手術室における「緊急事態」の発生状況の分析	田中 園美	武蔵野赤十字病院
東海・北陸	麻酔科関連(臨床)	当院における胸腔鏡下肺切除術の術後悪心・嘔吐対策について	那須 倫範	富山県立中央病院
関西	循環(臨床)	新生児期、乳児期に行う小児心臓外科手術におけるクリオプレシピテートのフィブリノゲン濃度の上昇効果	嵐 大輔	地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
中国・四国	神経(基礎)	急性脳内神経炎症およびせん妄様行動に及ぼす急性術後痛の関与 - ラット開腹手術モデルでの検討 -	小山 毅	高知大学医学部 医学科
九州	呼吸(臨床)	全身麻酔時の酸素摂取量と平均血圧の関係	谷本 宏成	熊本総合病院

## 2019年度 支部学術集会開催予定

2019年度 支部学術集会は下記の通り、開催を予定しています。

日程	学術集会名	会場	会長	所属
2019年9月7日(土)	関東甲信越・東京支部 第59回合同学術集会	京王プラザホテル 新宿	小森万希子	東京女子医科大学東医療センター
2019年9月7日(土)	東海・北陸支部第17回学術集会	名古屋コンベンションホール	藤原 祥裕	愛知医科大学医学部麻酔科学講座
2019年9月7日(土)	中国・四国支部第56回学術集会	くにびきメッセ	齊藤 洋司	島根大学医学部附属病院
2019年9月14日(土)	北海道・東北支部第9回学術集会	仙台国際センター	川前 金幸	山形大学医学部麻酔科学講座
2019年9月14日(土)	第65回関西支部学術集会	大阪国際会議場	上山 博史	関西労災病院
2019年9月14日(土)	九州麻酔科学会第57回大会	アクロス福岡	山浦 健	福岡大学病院

## JA・JACR 査読員公募について

機関誌専門部会

Journal of Anesthesia (以下JA) は日本麻酔科学会の英文機関誌として年6号発行しております。

1987年創刊、2003年Medline収録、2007年WEB of Science収録、2009年Impact Factor取得の歴史があります。2008年から電子投稿・査読システム(Editorial Manager)を採用しています。

JA Clinical Reports (JACR) は、症例報告を対象としたオープンジャーナルであり、Journal of Anesthesia(JA)に次ぐ日本麻酔科会の機関誌です。日本麻酔科学会の会員であれば投稿料が無料となっています。

日本専門医機構認定専門医更新について、機関誌の査読は1回につき1点の単位が加算されることとなっており、これを機に、JA/JACRのオンライン査読者を会員の皆様に常時公募いたしております。

査読は1年間5-10回程度、査読システムを利用して行ないます。システムで校閲して頂き、初回は3週間(再投稿時は2週間)の期限内にシステムへ英文で結果の入力が求められます。査読内容は、編集委員が精査して毎回採点をしますので、編集委員会で大きな問題があると判断した場合は、外れて頂くこともあります。また、査読を断る頻度が高い場合も同様に外れて頂く場合があります。

皆様の多くのご応募をお待ちしております。

※応募いただいた方につきましては、専門分野等を考慮し審査後、選任することになります。査読者に決定した方には、査読の手順についてもご案内いたします。

**応募はマイページの機関誌ページよりおこなってください。**

## 麻酔博物館 団体見学について

麻酔博物館委員会 委員 牧野 洋

9月20日、麻酔博物館に海外から、日本の麻酔医療視察団御一行12名様をお迎えしました。前世界麻酔科学会(WFSA)会長David Wilkinson先生をはじめ、麻酔の歴史に大変造詣の深い麻酔科の先生方にご来館頂きましたので、武田館長及び牧野委員が対応させていただきました。ご見学の先生方は、新しく開設された華岡青洲コーナーや日本の古い麻酔器を熱心にご覧になり、かなり深いご質問を頂戴いたしました。また、麻酔博物館に対する貴重なご助言を頂くなど、双方にとって大変有意義な機会となりました事をご報告申し上げます。



## 麻酔博物館より 寄贈のお願い

麻酔博物館 館長 武田 純三

麻酔博物館では、以下の書籍・雑誌、器具等を探しております。所有しておられ、麻酔博物館へ寄贈可能な場合には、麻酔博物館ホームページ内寄贈フォームよりご連絡ください。

1. 「麻酔」50巻7号、8号 2001年 克誠堂
2. 1977年(昭和52年)発売  
ミノルタのパルスオキシメータ1号機  
OIXMET MET-1471

※写真参照

寄贈フォームのご案内：  
麻酔博物館トップページ→  
「ご寄贈のお願い」または  
「寄贈して下さる方へのお願い」  
をクリックしてください。



## 2018年度 留学生受け入れ事業報告

本年度受け入れ留学生(10名)は下記施設にて研修を終え、無事帰国されました。

番号	氏名	居住国	受け入れ施設	受け入れ期間
1	Vishal Krishna Pai	インド	金沢医科大学病院	5月6日-7月29日
2	Lam TienTung	ベトナム	山形大学医学部附属病院	5月1日-7月29日
3	Lean Chung Yee	マレーシア	神戸大学医学部附属病院	5月1日-6月29日
4	Meera Mohan Metha	インド	東京都立小児総合医療センター	5月1日-6月1日
5	Tumenjargal Purev-Oidov	モンゴル	和歌山県立医科大学附属病院	5月1日-7月29日
6	Eslam Albayadi	エジプト	名古屋大学医学部附属病院	5月1日-7月29日
7	Arop Mawein Deng Kual	南スーダン	埼玉県立小児医療センター	5月2日-7月29日
8	Magaret Yangkasaputra	インドネシア	杏林大学医学部附属病院	8月9日-10月29日
9	Shariffah Raguan Syed Othman	マレーシア	札幌医科大学附属病院	8月1日-10月29日
10	Pipat Saeyup	タイランド	京都府立医科大学附属病院	8月1日-10月29日

## 大型研究、留学生事業廃止のお知らせ

2016年度・2017年度に募集いたしました学術助成事業につきまして、2019年度は募集を見合わせることにいたしました。

学術委員会ではこれまでの募集条件や内容等を検討し、新たな研究事業を検討しております。国際交流委員会では、留学生受入事業として発展途上国の麻酔科学の発展のため、日本での臨床研修の機会を提供してはりましたが、2018年度を以って事業を

終了することと致しました。現在、学会員の皆様および麻酔科に携わる皆様の国際交流を深める機会を提供すべく、新たな事業を検討しております。

これまで両事業へご協力いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



# 麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会委員長 飯田 宏樹

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2018年7月から10月までに、HPに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら [anzen@anesth.or.jp](mailto:anzen@anesth.or.jp) までご連絡下さい。

<故障情報掲載ページ>

## <http://www.anesth.or.jp/med/post-2.html>

日本麻酔科学会トップページ → 医療関係者の皆様 → 麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

### ドレーゲル・気化器D-Vaporに スープレックス吸入麻酔液を注入する際の注意

#### 製品名

ドレーゲル・メディカルジャパン社 D-Vapor  
バクスター社 スープレックス吸入麻酔液

#### 事象

気化器に注入する際、注入口からスープレックス吸入麻酔液が噴出する。

#### 原因

吸入麻酔液を気化器にボトルから注入し、そのボトル内の吸入麻酔液が気化器に完全に注入される前に、素早くボトルを気化器から引き抜いた場合に発生すると考えられる。

#### 対応

吸入麻酔液を気化器に注入完了後、2-3秒間待ってから吸入麻酔液のボトルを気化器からゆっくりと引き抜く。

### GEヘルスケア・ジャパン社 TEC6プラス気化器デスフルランの不良発生

#### 製品名

GEヘルスケア・ジャパン社 TEC6プラス気化器デスフルラン  
使用年数3年(耐用年数7年)

#### 事象

TEC6プラス気化器デスフルランを使用し、低流量麻酔中に「NO OUTPUT」のインジケータが点灯しアラームが鳴った。ガスモニター上、EtDes 24%、FIO2 18%が表示され、薬液量を示すバーが急速に低下した。デスフルラン投与を中止しセボフルランに変更した。その後、「NO OUTPUT」の点灯が消えたため再投与したところ、同様の事象が起きた。

#### 原因

現時点で原因不明。  
GE社で引き続き調査が行われている。調査完了後、再報告が提出される予定。

#### 「NO OUTPUT」アラーム発生時の対応について

使用中「NO OUTPUT」アラームが発生した場合は、気化器ダイヤルをOFFの位置まで回し、以下の対処を行う。

- ・麻酔剤レベルが20mL未満まで低下 → 麻酔剤を補充する
- ・電源障害が発生して10秒経過 → 電源ケーブルの接続を確認する

以上の対処をしても「NO OUTPUT」アラームが止まらない場合は使用を中止する。

### GEヘルスケア・ジャパン社 麻酔器エスティバコンパクトの呼吸回路リーク

#### 製品名

GEヘルスケア・ジャパン社 エスティバコンパクト(エスティバ7100)  
使用年数9年(耐用年数7年)

#### 事象

麻酔中に麻酔器背面部よりガスリークが発生したが、ベンチレーター駆動部のテストポートプラグを下から押さえたところ、リークが止まった。

#### 原因

テストポートプラグの経年劣化がリークの原因であった。  
このテストポートプラグは定期点検の際、圧力調整器(減圧弁)の圧力を確認及び調整するために使用する。

#### 対応

日常の始業点検時、麻酔器からの異常に大きなガスリーク音が確認された場合、使用を避ける。定期点検の際にテストポートプラグの点検を行う。

### コヴィディエンジャパン社 人工呼吸器 PB980のシステムエラー

#### 製品名

コヴィディエンジャパン社 人工呼吸器 PB980  
使用年数 1年5ヶ月

#### 事象

機器作動中に緊急度が高いアラームとともに、ディスプレイに「システムエラー」と表示された。

#### 原因

吸気側の換気制御を行うニューマチックインターフェイス基盤の不調。

**対 応**

当事象は同社より海外製造元へ報告された。アラーム消音機能が効かない連続音のアラームが鳴動した場合、機器の故障が疑われるため、ただちに手動換気等の他の手段を用いて換気を継続する。併せて施設担当者に報告する。

## GEヘルスケア・ジャパン社 エイシス全身麻酔装置 APLバルブの動作不良

**製品名**

エイシス全身麻酔装置(類型形名エイシスCS2)  
使用年数5年(耐用期間7年)

**事 象**

麻酔中に手動換気(バッグ側)での気道内圧制御の不良が発生した。

**原 因**

APLバルブの全開位置ストッパーが破断・脱落し、気道内圧を制御す

るダイアフラムの部分に挟まり、動作不良を起こしていた可能性があり、現在調査中である。

**最終調査結果が出るまでの対応**

同様の事例が発生した場合は、バッグ・バルブ換気や他の麻酔器に交換して対応する。

ABS(Advanced Breathing system)の脱着でストッパーを移動させることにより解消が見込まれるが、麻酔システムの回路がオープンとなる為、使用中は十分注意する。

なお、2017年8月30日に報告した事象

(<http://www.anesth.or.jp/med/20170830.html>)と酷似していることから、メーカーは関連性を含め継続して調査している。

**【障害発生時のAPLバルブの機能】**

1. ストッパーの有無はAPLバルブの機能を妨げない。ストッパーがない場合、APLバルブノブの全開位置(■印)をわずかに外れることがある。
2. APLバルブは、手動換気モードでのみ圧力を制限し機械換気中は機能しない。

## ■麻酔科認定病院におけるJSAPIMS(麻酔台帳)の導入必須化に伴う新インストーラーリリースについて

JSAPIMS(麻酔台帳)の新しいインストーラー(Ver.6)を10月31日にリリースいたしました。

新機能として主に下記の3点が追加されました。

①日本専門医機構の新専門医制度への対応に伴い必要経験症例の登録

②データベース項目の拡充および整理

気道・呼吸管理項目：気道確保分類、気道確保手段分類、換気分類、に細分化。

手術部位分類：頻度の高い手術名を加え手術部位分類の精度向上。

術前合併症：旧分類との項目整理

偶発症例提出ファイル：気道・呼吸管理、術前合併症、各種時間の項目を追加

「手術開始時刻」から「麻酔開始時刻」に変更

③心臓血管麻酔専門医：日本心臓血管麻酔学会認定専門医資格取得のための申請データの入出力。

認定病院におかれましては、2019年度から年次報告の提出、専門医認定申請等にあたり、JSAPIMSの利用が必須となります。

右記の説明をご確認いただき、新インストーラーのインストールをお願いします。

**・認定病院の年次報告**

JSAPIMSにデータを入力することにより年次報告に必要な項目が出力できます。

**・専門医認定のための症例登録**

認定病院のご担当の方は、認定病院に所属する麻酔科医(専攻医を含む)をJSAPIMSに登録いただき、日々の症例詳細をご入力いただくこととなります。麻酔科専門医(麻酔科認定医、認定指導医)の新規申請、更新申請に必要な症例は、JSAPIMSに入力されたデータを認定病院から提出いただくこととなります。特に専攻医に関しては、専門医認定に必要な症例、必須症例等の登録の間違いないよう、施設からの登録が必須となっております。認定病院以外でご勤務の方もできるだけJSAPIMSのご利用をお願いいたします。

**・偶発症例調査について**

認定病院は、毎年偶発症例調査の提出が必須となっております。JSAPIMSをご利用いただくと、ボタン一つで調査回答ができる仕組みとなっております。

新インストーラーのダウンロード方法やその他詳細については、日本麻酔科学会HP JSAPIMSヘルプデスクよりご確認ください。

## 臨床研究実施と公表に必要な倫理事項について

倫理委員会委員長 山崎 光章

臨床研究を実施し、その結果の公表を適切に行わないと、患者やその関係者に不利益を及ぼすだけでなく、時として生命を脅かすことがあります。そして、社会は発表者の倫理観を疑い、場合によっては法規に従って処分しようとする。これまで、学会員の皆様のなかには、学会などにおいて臨床研究の発表をしようとする際、どのような点に配慮をすればよいのか迷うこともあったかと思えます。

今回、日本麻酔科学会として臨床研究の実施・公表の際の規範となる倫理事項を策定いたしました。時として難解と思われる内容をわかりやすくまとめています。ぜひとも参照し、今後の研究活動の指針としていただようお願いいたします。詳細は学会ホームページよりご確認ください。

日本麻酔科学会トップページ→指針・ガイドライン→臨床研究実施と公表に必要な倫理事項



# 北から南から

## 「学ぶ楽しさ=知る喜び 畑違いは学びの宝庫。 MC ? BCP ? RRS ?」

新潟県立新発田病院 熊谷 雄一

今年の冬、お世話になった麻酔科の大先輩と手術室の技師さんが相次いで逝去され、自分も現役引退が近いことを感じています。風の噂で前任の下地教授は、おそらく80歳を超えておられるはずですが、未だ現役と聞いております。しかし、私は還暦を過ぎ、徐々に肌で新しい技術獲得が難しいことを感じています。

1982年の入局当時の麻酔科では、手術麻酔のみならず、ペインクリニックや緩和、救急医療・集中治療もすべて麻酔科の範疇でした。故に未知の学習課題が、新人には多くありました。インターネットも無い時代では、新しい技術を学ぶにも時間がかかります。一子相伝ではないのですが、中心静脈確保でも、いろいろな先生に教を請うたり、遠くの学会に参加したものです。平成の30年間で救急科は別講座になってしまい、緩和医療もやや手術主体の麻酔とはかけ離れた時代です。私は、21世紀になり、麻酔技術とはやや畑違いの分野で多くのことを学びました。たとえば、医療安全では、メディエーションという交渉方法も知りました。(ナラティブとかご存じですか?)。いまや研修医には当然のJATEC・JPTECも学びました。シミュレーション学習やオスキーの教育法も救急やDMATの世界で教えていただきました。緩和医療の世界では、PEACEという講座で全国で統一した教育方法をとっている事を知りました。2002年に始まった救命士の高度化に伴い、国主催のメディカルコントロール統括医講座では、KJ法やロールプレイによる教育方法で指導され、座学から自らが活動する教育法に代わったことも理解できました。さらに最近はe-Learningが日本医師会・日本麻酔科学会でもHP上から学べます。先日は若い麻酔科の先生に誘われて、「J-CIMELS母体急変時の初期対応コース」に参加してきました。教育方法の進歩で教えてくださる方もお上手です。受講者をいやな気持ちにさせないで、楽しく学びに導いてくれます。これからは、医師ももっと学習方法を学ぶ時代なんですね。一番最近の苦労は、業務継続計画(BCP)の理解です。これは、企業が災害時にも事業をいかに速く復旧させるかの手段で、ビジネス用語です。私は、企業コンサルの講習会でした。BCPは、国から命令された計画書で、災害拠点病院では、今年度中に作らなくてはならない必須事項です。来月は、安全医療講習で30代若い先生からRRS(RAPID RESPONSE SYSTEM)を学びに行く予定です。教育方法はもっと変わると確信して、今年はシミュレーション学会に入会してみました。これからも新しい習い事にチャレンジです。ワイドな視野な麻酔科なればこそ、ほけ防止は、新たな学びと好奇心維持ということで、若者たちに混じっていきたくと思っています。

## ご縁の国、出雲から

島根大学医学部附属病院 片山 望

この原稿を書いている現在、出雲ではもうすぐ旧暦10月、神在月(かみありづき)を迎えます。全国から八百万の神様が出雲に集まり、他県では神様がいなくなるので神無月と呼ばれますが、出雲では「神が在る月」で神在月と呼ばれます。なんでも「神議(かみはかり)」なる会議をされているそうで、様々な人の「縁」もこの時に決められているそうです。

私が島根大学に入学し、出雲へやってきたのはもう15年前のこと

になります。入試の日、母と出雲大社を参拝し、大学との縁を祈ったことも懐かしく思い出されます。幸いご縁があったのか、気づけば人生の半分近くを出雲で過ごしています。

ここ島根県は東西に広く、また隠岐の島という離島があり人口に比して広い医療圏を有しています。当院麻酔科は、手術麻酔やペインクリニックだけでなく、集中治療、緩和ケアの分野で島根の医療に携わっています。ここ数年では小児心臓外科手術の開始、手術室の増設、高度外傷センターの開設など、手術のバリエーションも数も増え、ますます麻酔科の需要の高さを感じるようになりました。

後輩もたくさんでき、あっという間に医師になって10年目、これまで本当にたくさんの人の縁に恵まれながら仕事をしてきました。学生時代から苦楽を共にした同期たち、麻酔科という道を教えてくれた医局の先生方をはじめ、研修でお世話になった岡山大学の先生方など挙げればきりがありません。大国主大神はまだ男女の縁を結んでくれないので、きっとまだ出雲にいなさいということかと思えますので、今後も出雲でがんばっていこうと思っております。出雲にいらした際にはぜひ出雲大社はもちろんのこと、新鮮な日本海の海の幸や豊富な温泉など楽しんでいただければと思います。

## 熊本近況

熊本大学医学部附属病院 野中 崇広

まずは今年の地震、集中豪雨、台風で被災された方々に深くお悔やみ申し上げますと共に、皆様の1日も早い復興を祈念いたします。災害と聞くとやはり2年前の熊本地震を思い出しますし、他人事とは思えません。我が家も倒壊こそ免れましたが(後日半壊の判定をいただきました)とてもそのままでは住める状況ではありませんでしたので、隣市の妻実家に家族と実父母計7名で約1ヶ月お世話になりながら家の整理を行いました。見通しの立たない非日常が続く疲労感や、余震の度によぎる恐怖はもう経験したくないものです。丁度その頃、崩れ落ちた熊本城を目の当たりにした時になんとも言えない喪失感を感じたのも私だけでは無いはずでした。

それでも阿蘇や益城といった被害が甚大であった地区に比べると、皆様の大きなご支援もあり熊本市での生活が日常に戻るのは早かったと思います。私事ですが、1年前は隣県のこども病院に研修に行かせていただく機会までいただきました。恥ずかしながらこの10年間、麻酔に携わっておりながら小児症例はほとんど経験する機会がなく、腫れ物に触るように麻酔をしておりましたので、大変貴重な勉強をさせていただきました。また、そこで地震の際は熊本から多くの患児を受け入れていただいた、とのお話も伺い、我々の知らないところで本当に多くの方々に支えていただいていたのだな、と実感しました。

話を熊本に戻しますと、この夏、秋は毎年恒例となりましたDAMセミナーと、昨年度に引き続き2回目の開催となる熊本区域麻酔セミナーが大学で行われました。DAMセミナーは、毎年豚喉頭を使っの外科的気道確保実習もおこなっており、皆が楽しみにしているセミナーの一つです。区域麻酔セミナーでは、北は青森、南は鹿児島(沖縄の先生は台風で来熊ならず)とそれこそ北から南から講師の先生にお越しいただき、また、地元の若手麻酔科医も指導側に回りブロックへの研鑽を深めました。

以上、熊本の最近を報告させていただきました。最後になりましたが、熊本は美味しいものやいい温泉もたくさんありますので皆さん是非遊びに来てください。

## 2018年度の年会費をお支払ください

2018年度年会費の支払締切日(2018年9月30日(日))が過ぎております。  
まだお支払でない方は、至急お支払ください。

会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従ってお手続き下さい。

お支払い情報のマイページ反映には、2.3日お時間頂く場合がございますのであらかじめご了承ください。

## 2017年度の年会費未納の方へ —ご周知ください—

●2018年9月30日に2017年度年会費に未納があった方は、「学会の発行する会員向けの印刷物及び電子的情報の配布を受ける権利」「認定医、専門医、指導医等の資格の申請をする権利」を停止させていただきます。2年度分を完納いただければ権利は復活します。

●2019年3月31日に2017年度年会費に未納がある方は、2019年3月31日時点で退会となります。

再度会員になる場合は入会の手続きを行っていただく必要があります。ただし再入会時に従前の専門医等の認定資格は復活せず、認定医から再度取得となりますのでご留意下さい。

## 領収書について

会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従って出力下さい。(1回のみ出力可能です)

※年会費以外の領収書発行については左側メニューボタン「会費以外の領収書発行」より可能です。

## 会員(IC)カード発行について

会員(IC)カードは、年次学術集会(毎年5月もしくは6月)・支部学術集会(毎年9月)に間に合うように発行しております。会員(IC)カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録(チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退室に必要です。紛失された方は会員専用ページ「マイページ」内「プロフィール」、左側メニューボタン「カード再発行申請」からお手続きを行ってください。

他学会の学術集会で麻酔科領域講習、共通講習受講のため、仮会員カードを臨時で発行される場合には、会場内に設けております、仮カード発行ブースで有料発行のうえ、ご参加ください。会期終了後に返却をお願いいたします。

※会期中に返却された場合、再発行には、再度発行代金をお支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

## 入会について —ご周知下さい—

毎日10日を期日とし、入会申請を受け付けております。入会申請には、①WEB申込及び②書類の提出が必要となっており、①・②どちらも完了している方を対象に入会審査を進めております。審査後、同月15日付けで入会承認結果を申請者にメールで通知いたします。承認された方はメールに記載されたURLから、期日までにクレジット決済で年会費を入金して頂くことになり、入金完了時点で会員となります。

※入会スケジュールは、変更となる場合がございます。詳細につきましては、弊会HP「入会・会員情報登録・更新」をご確認ください。  
※一旦退会后、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行って下さい。直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと合わせて入会年度の年会費をお支払い頂き、再入会となります。ただし、専門医等の認定資格は再入会しても復活しません。再度認

定医から取得し直していただく必要があります。再入会と新入会の申請ページは異なりますので、ご確認いただいた上でご申請をお願いいたします。

※学術集会の会員として単位付与される一般演題応募、参加登録、事前予約等のシステム利用は、申し込み時点や参加時点で入会の手続き(申請～支払い)を完了された方に限ります。

## 会員WEBページ「マイページ」について

会員WEBページ「マイページ」(会員情報管理WEBページ、年会費支払、単位管理など)が2016年10月より変更になりました。

ログインページURL：[https://nsas.anesth.or.jp/JSA\\_LOGIN.aspx](https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx)

※日本麻酔科学会HPトップページ「重要なお知らせ」欄の上に掲載している『「マイページ」 ログイン』からもログイン可能です。

※ログインするためには会員番号とパスワードの入力が必要です。

こちらの会員WEBページ「マイページ」のご使用について下記にまとめさせていただきます。

### 【マイページから行っていただけの手続き】

- ① 年会費支払、領収書発行
- ② 会員情報変更
- ③ 各種領収書の発行
- ④ 会員カードの再発行申請
- ⑤ 単位取得状況確認
- ⑥ 学術集会事前申込
- ⑦ Eラーニングの受講
- ⑧ 認定資格入力、書類作成

### 【マイページから行っていない手続き】

- ⑨ 抄録の受付、査読

※①から⑤に関しましては、マイページにログインいただいた後「プロフィール」から、手続きを行っていただけます。

※⑥に関しましては、マイページにログインいただいた後「学術集会事前受付」から、⑦に関しましては、「e-Learning」からそれぞれ行っていただけます。

※⑨については別システムとなり、別途メール連絡を以ってご利用頂くこととなっております。

## 会員WEBページ「マイページ」変更のご案内および 登録住所の確認のお願い

年会費支払、会員情報変更のWEBページを新システムに移行致しましたが、会員の皆様にご変更頂きました会員情報について情報が一部反映されていない場合がございます。お手数おかけ致しますが、必ずご確認頂きますようお願い致します。

## メールアドレス・勤務先・住所の確認・変更を お願いします

メールアドレスや勤務先、自宅住所が変更になった場合は、忘れずに会員情報の変更も行ってください。会員専用ページ「プロフィール」内「会員情報更新」より変更が可能です。会員情報が更新されていないと、重要なメールや発行物が届かず、先生ご自身に不利益が生じる可能性があります。

※勤務先が認定病院の場合は、必ず、施設番号欄横の「検索」から施設名検索を行い、選択してください。

※認定病院情報(住所・電話番号・代表専門医など)の変更については、認定病院の代表専門医より変更申請が必要です。個人での変更は出来ません。

ログインページURL：[https://nsas.anesth.or.jp/JSA\\_LOGIN.aspx](https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx)

■メールについて

- 弊会からのメールは「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」または「@atlas.jp」ドメインからお送りします。「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」および「@atlas.jp」ドメインを受信できるように、お使いのメールソフトで設定してください。
- 携帯電話のメールアドレスは利用できません。
- 認定申請の結果など、重要なお知らせもメールでご連絡します。正しいメールアドレスを登録した上で、必ずメールを確認するようにしてください。
- 重要なお知らせについては、日本麻酔科学会ホームページ及びマイページにニュースとしても掲載します。併せて確認するようにしてください。

国内名誉会員推薦受付開始時期について

2019年度名誉会員の推薦受付を下記の通り予定しております。推薦方法等の詳細につきましては、学会ホームページに掲載後、日本麻酔科学会代議員の皆様に掲載した旨、ご連絡致しますので、ご確認とご周知の程、宜しくお願いします。

<推薦受付期間>  
**2019年1月7日(月)～**  
**2019年2月1日(金) (17時必着)**

訃報連絡

2017年11月～2018年10月にご逝去の届出がございました名誉会員、会員は下記の通りです。謹んでお悔やみ申し上げます。

※名誉会員、代議員経験者のみ

- 山村 秀夫 先生 (名誉会員) 2017年11月25日
- 宮崎 正夫 先生 (名誉会員) 2018年 9月 8日
- 全 世雄 先生 (海外名誉会員)
- Michael Rosen 先生 (海外名誉会員)
- Ephraim S. Siker 先生 (海外名誉会員)
- John Francis Nunn 先生 (海外名誉会員)
- Leroy D. Vandam 先生 (海外名誉会員)
- Merel H. Harmel 先生 (海外名誉会員)
- Nicholas Mispree Green 先生 (海外名誉会員)
- James Patrick Payne 先生 (海外名誉会員)
- Saywan Lim 先生 (海外名誉会員)

2018 年度選挙について

選挙管理委員会

2018年度選挙について、2018年11月2日(金)に理事候補者選出選挙投票を締切り、2019年度・2020年度就任 理事候補者が確定致しました。また、同年11月16日(金)～28日(水)の期間において理事長予備選挙を実施いたしました。

今後は、2019年1月中旬に理事就任予定者会議を開催し、2019年5月29日(水)第9回定時社員総会において承認後、理事長をはじめとする理事が、就任となります。詳細につきましては、会員HPをご覧ください。

※2019年5月29日(水)に開催される社員総会の出席対象者は現代議員となり、今回の当選者ではございません。

編集後記

「アレクサ、〇〇して!」を連発するAI(人工知能)スピーカーのテレビCMを見て、軽い衝撃を受けました。簡単な作業をしてくれる医療ロボットが廉価で得られる時代は遠くないと感じました。「アレクサ、フェニレフリン入れて!」なんて、きっと朝飯前です。「平均血圧が65mmHgより下がったら、フェニレフリン入れて!」も難しくないでしょう。私たちが行う麻酔中の薬剤投与の判断を機械に任せるようになるのはいつのことかと思っていたら、機械学習によって麻酔中の平均血圧が65mmHgを下回ることを予想できるという論文を見つけました。血圧低下の15分前にはかなりの精度で予想できています。AIに負けそう!と感じました。そして「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」という本に出会いました。東大に合格するロボットを作るプロジェクトチームのリーダーを務めた数学者が執筆したものです。それを読み、AIの得意なことと苦手なことがわかってきました。また現段階のAIでは、東大入学レベルに達することはできないことも知りました。国語力つまり読解力が足りないためです。これから先AIと上手に共存するために麻酔科医が担うべきことは、共に働く複数のスタッフとコミュニケーションを図りながら総合的な判断をすること、それから、まだ答えの見つかっていないものを模索して新しいものを生み出すことと考えています。そのための自己研鑽や若手の教育に努めたいと思うこのごろです。

2018年も年4回のニュースレターと月1回のメルマガをお届けすることができました。ご協力いただきました皆さまに深謝いたします。本年の広報委員会は、ホームページの改訂にも精力的に取り組んでまいりました。探している情報を見つけやすいホームページを目指し、まもなく最終段階の作業に入ります。来年更新されるホームページにご期待ください。

(広報委員会委員 加藤 里絵)



**マシモジャパン株式会社**  
〒169-0074  
東京都新宿区北新宿2-21-1  
新宿フロントタワー24階  
TEL:03-3868-5201 FAX:03-3868-5202  
<http://www.masimo.co.jp>

公益社団法人 日本麻酔科学会

NEWS LETTER

2018 Vol.26 no.4  
http://www.anesth.or.jp  
2018年12月20日発行  
©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て(公社)日本麻酔科学会に帰属いたします。無断複製・転載を禁じます。

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 足立 健彦  
[広報副委員長] 白神 豪太郎  
[広報委員] 加藤 里絵、渋谷 博美、橋本 悟、藤中 和三、萬 知子  
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号  
神戸キメックセンタービル3階  
TEL:(代表)078-306-5945  
(認定関連問合せ専用ダイヤル)078-335-6078  
FAX:078-306-5946

◆制作 株式会社杏林舎  
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10  
TEL:03-3910-4311 FAX:03-3949-0230